

品に携わることができるだけ多くの人に合意を諮るようになった。結果、開発期間の短縮、製品トラブルの減少はもとより、費用対効果も以前より3割ほど上がりました」

「ドラッカーの言葉は、部下の差配に悩むビジネスマンの心を掴む。精密部品メーカー、中央精工常務の中村克海氏（35）が語る。「会社の業績が悪く暗い社員ばかりでした。自己紹介をしても、腕組みをしなから何の反応もしてくれなかった」

若くして管理職という重責も任されていたが、部下の心がなかなか掌握できない。不景気が続き、リストラを検討していたこともあったという。

「そんなとき、ドラッカーに出会い、ヘリーダーが持つべき資質は才能ではなく真摯さである」という一節を目にする。

「自分に足りないものが何かわかりました。会社のことばかり考えて部下の顔が見えず、対話もできていませんでした。それからは不良品やクレームについて対策をするときは、部門のリーダーを集めて再発防止を話し合う絶

経営の真髄に「マネジメント」「リーダーの条件」「マーケティング戦略」…

「経営の神様」の真髄に触れる箴言15

珠玉の

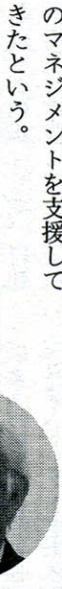
ドラッカーが遺した言葉は、時代を問わない。前出の経営コンサルタン

ト・藤屋氏は、その教えを啓蒙することで数多の企業のマネジメントを支援してきたという。

「不況が長引き、厳しい経営環境ですが、ビジネス活動を体系化しているドラッカーを理解すれば、必ずや成果を得ることができま

す」ここからはドラッカーの真髄に触れる箴言をジャンル別に紹介したい。

「単調な作業においては機械やロボットに及ばないが、人には創造や、いたわりなど固有能力がある。その特性を引き出すためにも部下には権限と責任を与え、自らの意思で企業に貢献してもらおうとするのが、本来の目標管理です」(藤屋氏)



ドラッカーの著作は英首相・チャーチルからも激賞された(円内は左=藤屋伸二氏、右=上田淳生氏)

「自己管理による目標管理こそマネジメントの哲学と呼ぶべきものである」(『現代の経営』)

ドラッカーは人を尊重するための経営を大切に。役割にかかわらず、個人目標をたてるのが最重要で、それが部門や会社の目標と

「コスト削減」戦略放棄に等しい。コストの問題はあらゆる活動を数年ごとに点検して、予防できるものなのです」(上田氏)

リーダーの条件

「組織の精神はトップから生まれる」(『マネジメント―課題・責任・実践』)

マネージャーの資質は真